

はじめに

本定位・機能神経外科治療ガイドラインは、機能的疾患の患者さんを目の前にした医師がどのような治療をなすべきかと考えた際の一助となるべく、そして若い脳外科医の方々の勉強の一助となるようにと、2007年に故大江千廣先生を作成委員長として第1版が、そして2013年に片山容一先生のもと第2版が刊行されました。科学技術の進歩は日に日に速度を増しているように思われますが、定位・機能神経外科領域は特に著しく、今回の改訂までに様々な技術の革新がなされ、概念の変遷がもたらされました。また治療対象となる疾患も研究段階のものも含めると多岐に及んでおり、今後さらに広がってゆく領域と思われれます。それに伴いガイドラインの改訂の必要性も大きくなっています。

ガイドラインは完成した時から、刻一刻と時代遅れになっていく事を運命付けられていますが、今回の改訂版では、その時間差を少しでも緩衝すべく、まだ本邦の保険に収載されていないような新たな技術、例えば集束超音波治療や難治性疼痛に対する経頭蓋磁気刺激療法などもできるだけ記載することとしました。今回も日本定位・機能神経外科学会の新進気鋭の先生方に執筆をお願いし、決してエビデンスの豊富な領域ではありませんが、実臨床に即した内容のガイドラインとなったと自負しています。本ガイドラインの作成にご尽力いただきました諸先生方にこの場をおかりして心より感謝申し上げます。

昨今、各方面でガイドラインの作成が行われる傾向にありますが、ガイドラインはあくまで診療の一助となるものであり、特に機能的疾患の治療にあたっては患者さんとの十分な意見交換が必要であることは言を俟ちません。このガイドラインが多くの方々に活用され、患者さんのより良い治療に結び付くことを祈念しています。

2018年5月

日本定位・機能神経外科学会ガイドライン作成委員会
委員長 難波 宏樹